



長野県議会の6月定例会（6月18日から7月3日）では、コロナ禍における医療体制、学校と教育の問題などと治水対策について質問にたちました。



一人ひとりを 大切に教育

山口 長期休業から授業を再開したが、児童・生徒に習熟度の格差やストレスがある。一人ひとりを大切に手厚い教育、心のケアが重要である。

教育長 指導計画の見直しや、習熟の程度に応じた学習等を実施する。LINE相談窓口で不安や悩みに対応し、専門家と連携し、継続的な支援を行う。

新自由主義からの転換を

山口 コロナ禍で、「新自由主義」——市場原理主義、社会保障切り捨て、自己責任の路線が問われている。社会保障・福祉に手厚い政治、人間らしく働けるルールある社会、内需型経済に長野県から転換をめざすべき。

知事 医療・介護提供体制など、誰にでも居場所と出番がある県づくりを進めている。働き方改革は、誰一人取り残さない社会づくりに努める。これまで以上に、地域内経済の循環促進に取り組みたい。

＊知事答弁は、新自由主義についてほとんど触れず、これまでの延長線上でした。

千曲川治水対策に住民の声を

山口 昨年の台風19号で千曲川が決壊したが、当時どれだけの水が流れていたのか。信濃川緊急治水対策プロジェクトでどれだけの水が流せるようになるのか。住民への説明、合意をどのように進めるか。

建設部長 決壊時毎秒9000トンの水が流れていた。プロジェクトでは、遊水池整備などで流量を減らし毎秒8600トンが流れても堤防を越えない。国は、今後少人数での説明会等、より丁寧に情報共有を図ると聞いている。

＊私の質問の翌日、地元紙もプロジェクトについて同内容を報道しています。引き続き、住民のみなさんの声が活かされる治水対策を求めます。

高校も少人数学級に

山口 1クラス40人の高校もある。新型コロナ対策のためにも、教職員を増やすなどで小規模の学級や学校をめざすべき。

教育長 高校は、学級とは別に授業等で少人数の集団を編成している。都市部では、教育効果、投資効果の最大化をめざす。

＊「教育効果、投資効果の最大化」とは、行き詰った新自由主義の路線。引き続き少人数学級を求めます。

県立大学の学生支援

山口 コロナ禍で学生の仕送りやアルバイト収入が減少している。独自に支援する大学もあり、長野県立大学でも授業料の減額や免除等を実施してほしい。

県民文化部長 困窮し修学を断念することがあってはいけない。学生や家庭の状況を把握しながら大学と検討し、適切に対応する。

浅川の内水災害対策

今年度は危機管理建設委員会に所属。浅川の第1排水機場が昨年の台風19号で被災し機能しないため、河川の改修、代替ポンプ、パトロールなど最大限の対策を求めました。

昨年の台風19号で越水した千曲川の篠ノ井地区の堤防改修について、長沼地区と同様に、宅地側のり面もコンクリートで被覆して強化することを求めました。

